

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23500734

研究課題名(和文)子どものスポーツ意識と総合運動部に関する研究

研究課題名(英文)A study on the sport consciousness of children and comprehensive athletic club

研究代表者

藤原 誠 (FUJIWARA, Makoto)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：00156928

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円、(間接経費) 330,000円

研究成果の概要(和文)：総合運動部は男子より女子の加入者が多く、女子のスポーツ参加を促進するクラブとなっている。総合運動部ではスポーツの楽しさを味わい、友達をつくり、友達となかよく活動することが重要な要素となっている。

総合運動部の活動日数は週2日まで、平日の練習時間は2時間までとなっており、スポーツクラブ非加入者のクラブ加入条件・ニーズと合致している。

総合運動部はこれまでスポーツクラブへの加入を躊躇していた者にスポーツの場を提供し、スポーツの楽しさを味わわせ、スポーツの実施を促すことができる組織として注目される。

研究成果の概要(英文)：There are more woman's members among comprehensive athletic clubs than boy, and they have become a club which promotes woman's sport participation. In the comprehensive athletic club, the pleasure of sport is tasted, a friend is made and working with sufficient inside with friends has become an important element.

The activity of comprehensive athletic club will be till two days per week, the practice of the weekday will have been till 2 hours, and it has agreed with non-participant's club subscription condition and needs.

A comprehensive athletic club provides the place of sport those who were hesitating subscription to sports club until now, and makes the pleasure of sport, and it is observed as an organization which can urge enforcement of sport.

研究分野：スポーツ社会学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学，スポーツ科学

キーワード：子ども スポーツ意識 スポーツクラブ 総合運動部

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 国は平成 18 年に改定した「スポーツ振興基本計画」の中で、子どもの体力の向上が心身の健全な発達の上で大きな課題となっていることに鑑み、外遊びやスポーツ等を通じた「子どもの体力の向上」を新たな政策課題の柱とした。そして、スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上方策の A. 政策目標達成のため必要不可欠である施策として、子どもを惹きつけるスポーツ環境の充実 - 学校と地域の連携 - を掲げた。そして、今後の具体的施策展開の項目目に「現場における実践的取り組みの強化」をあげ、「児童生徒が興味・関心に応じて、多様なスポーツに取り組めるよう、小学校をはじめとした総合運動部活動の実施等の環境づくりの推進を図る」ことを明記した。また、B. 政策目標達成のための基盤的施策においては、運動部活動の改善・充実を掲げ、今後の具体的施策展開において、複数校合同運動部活動の推進の中で、「小学校をはじめとして、児童生徒の興味・関心に応じて複数の種目に取り組むことができる総合運動部活動について、各学校における取り組みを促す」とした。

このように、今後の運動部活動において、総合運動部が重要な役割を担うことが期待される状況となってきた。

(2) 熊本市教育委員会では、平成 12 年度にさまざまな教育課題に対応するために、国や県の教育改革の動向を踏まえて、熊本市独自の教育改革プログラム「くまもと子ども輝きプラン」を策定している。このプランの中で、平成 13 年度から平成 22 年度までの 10 年間に 70 項目以上の事業に取り組むこととしている。平成 13 年度から 15 年度に重点的に取り組む項目として、「運動部活動の適正な推進」が掲げられ、運動部活動指針に基づく運動部活動の推進や複数の運動ができる総合運動部など、学校の実状に応じた多様な形態での部活動の実施が掲げられている。このように、熊本市においては、総合運動部設置の方針が明確に示され、運動部の活動が展開されている。

(3) これまで小学生のスポーツクラブに関する研究は、スポーツ少年団や地域のスポーツクラブを対象としたものが多い。著者もこれまでスポーツ少年団等を対象として、その活動実態や子どもの活動意識等について研究を行ってきた。生涯スポーツの観点からすると、このような既存のスポーツクラブへの加入だけでなく、スポーツクラブに加入したことがない子どもたちを取り込むことができる総合運動部の活動は、これからの子どものスポーツ実施において極めて重要となる。しかしながら、総合運動部はまだ設置が言われて日が浅く、総合運動部に関する研究はほとんどなされていないのが現状である。子どものスポーツクラブの新たな組織として注

目される総合運動部の必要性を認識するとともに、子どもの立場からスポーツクラブのあり方を検討することの必要性を認識し、本研究の実施に至った。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、文部科学省の「スポーツ振興基本計画」(改定)に基づき設置が進められている小学校総合運動部の実情を明らかにするとともに、総合運動部が真に子どもが求めるスポーツクラブとして機能するものなのか、子どもの立場、特に子どものスポーツ意識の観点から検討することを目的とした。

(2) 本研究では、総合運動部の設置が進んでいる熊本市を対象に総合運動部の設置に至る経緯や設置状況及びその活動状況を明らかにする。さらに総合運動部が設置されている小学校児童のスポーツやスポーツクラブに対する意識、スポーツ実施状況、スポーツ実施の希望等を調査により把握し、総合運動部の活動が児童の求めるスポーツ活動となっているか明らかにする。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では、総合運動部の設置が推進されるようになった社会的背景等について資料を収集し分析するとともに、総合運動部の設置が進んでいる熊本市を研究対象地とし、総合運動部設置に至る経緯、総合運動部の設置状況・活動状況等について、熊本市教育委員会ならびに総合運動部設置校を訪問して聞き取り調査を実施する。

(2) 聞き取り調査に基づき、総合運動部設置校児童を対象としたスポーツ意識、スポーツ実施状況、総合運動部活動等に関する質問紙調査票を作成し、調査を実施する。調査対象校の選定にあたっては、熊本市教育委員会では総合運動部を含む運動部やスポーツクラブの活動状況を確認し、今回の研究対象校としてふさわしい小学校を紹介してもらう。

質問紙調査の具体的内容は、全児童を対象とした子どもたちの遊びの実態、勉強・スポーツへの取り組み、体育の好き嫌いとその理由、スポーツの好悪とスポーツ実施時の意識、運動部・スポーツクラブへの加入状況、今後のスポーツとの関わり方についての希望、中学校での部活動・スポーツクラブへの加入希望等に関する項目、運動部・スポーツクラブ加入者を対象としたスポーツクラブ歴、スポーツクラブ加入の経緯、スポーツクラブの活動日数や活動時間、活動への参加頻度、大会・試合への出場状況、スポーツクラブに加入してよかったことやよくなかったこと、スポーツクラブでの活動目標や指導者の目標についての意識、スポーツクラブ加入による生活の変化、スポーツクラブの活動に対する満足度等に関する項目、運動部・スポーツクラブ非加入者を対象とした運動部・スポーツ

クラブへの加入希望およびそのクラブ種別、運動部・スポーツクラブ非加入の理由、参加するとしたらどの程度の活動日数や活動時間がよいか、スポーツクラブに対するイメージ、加入したいスポーツクラブの雰囲気、スポーツクラブで何を目標としたいか等に関する項目である。

運動部・スポーツクラブへの加入状況に基づき、学校運動部（総合運動部以外）への加入者、学校総合運動部への加入者、地域のスポーツクラブへの加入者、運動部（総合運動部を含む）・地域のスポーツクラブ非加入者の4群に分類した。この分類に従って、上記の項目について分析を行うこととした。特に総合運動部、総合運動部加入者の特徴や非加入者の希望するスポーツクラブ像等について明らかにし、今後の子どものスポーツクラブのあり方について検討することにした。

#### 4. 研究成果

(1) 平成 14 年の中央教育審議会答申「子どもの体力向上のための総合的な方策について」では、子どもの体力低下の原因を踏まえ、子どもがより一層体を動かすとともに、適切な生活習慣を身に付けるための方策として、「学校の取組の充実 - 創意工夫をこらした体力づくりと地域社会との連携 - 」を掲げ、運動部活動について、「子どものニーズに応えるため、外部指導者の一層の活用、複数校合同運動部活動、総合運動部の推進、地域のスポーツクラブとの連携・融合などが重要」としている。このように、今後の運動部活動において、総合運動部が重要な役割を担うことが期待されている。さらに、「運動部活動の充実 - スポーツにおける学社連携・融合の推進 - 」の第3項目として「総合運動部の推進」があげられ、「子どもが興味・関心に応じて、多様なスポーツができるよう、複数の種目に取り組むことができる総合運動部の推進を図ることが重要である。特に小学校の段階では、いろいろなスポーツを行って、筋力などバランスの取れた体の成長を促すとともに、自分にあったスポーツを見つけることができることから意義が多きい」としている。そして、その事例として、熊本市立小島小学校の総合運動部の取組が紹介されている。

このように、総合運動部の活動は子どもを惹きつけるスポーツ環境の充実のための方策として、また、子どもの体力向上のための総合的な方策の一つとして位置づけられるに至っている。このような状況を受けて、総合運動部の設置が進められていることがわかる。

(2) 平成 16 年 3 月に出された「くまもと輝きプラン進捗状況報告書」では、アクション3「運動部活動の適正な推進」の成果として、運動部活動の日数、時間等の活動基準を明確化し各学校に周知徹底させたことで、指針の

基準達成率が上昇したこと、運動部活動指導者について、教職員以外の指導者が増加したこと、総合運動部実施校が増加したことなどが報告されている。総合運動部については、実施校数は平成 12 年度に 19 校(31 部)であったが、平成 15 年度には 21 校(31 部)となったことが記述されている。

なお、平成 15 年に改訂された「熊本市立小・中学校の運動部活動について《指針》」では、活動日数や活動時間等の活動基準の明確化、第 1 日曜日の休養日の実施等に加え、多種目の運動をする「総合運動部」の推進が改訂の内容に含まれている。

(3) 平成 16 年度から 18 年度までの「くまもと子ども輝きプラン」では、子どもがより一層体を動かし、運動・スポーツに親しむための方策を実施し、低下傾向にある児童生徒の体力の向上を図ることを目的としたアクション3「児童生徒の体力向上」が実施に移された。総合運動部については、平成 15 年度の実施校数 21 を平成 18 年度までに 40 校とすることを目指し、この3年間での取り組みとして、児童が運動に親しむ環境を整備するため、小学校に総合運動部を広めていくことが明示された。しかしながら、平成 19 年に出された「くまもと輝きプラン進捗状況報告書（平成 16 年度～18 年度）」では、平成 18 年度の状況として、総合運動部の実施校は平成 15 年度と同じ 21 校にとどまっていることが報告されている。

(4) 平成 24 年に出された「くまもと子ども輝きプラン（総括）」では、10 年間の取り組みについての項目ごとの総合評価や今後の方向性についてまとめている。「児童生徒の体力向上」の項目の指標及び取組状況のところに、総合運動部の実施校が平成 15 年度に 21 校であったのが平成 22 年度には 24 校となったことが報告されている。そして、今後の方向性についての記述の中に、「楽しんで運動するための運動環境の確保として鉄棒や登り棒などの整備や運動機会を増やすための総合運動部の設置推進、学校生活の中での運動量確保への取り組み等に努めていく」としている。

以上のように、熊本市においては、教育改革プログラムの一環として、また、具体的な運動部の活動を規定する運動部活動の指針において、総合運動部の設置を進めることを謳い、総合運動部の活動を展開してきた。

(5) 総合運動部の設置や活動状況についての聞き取り調査では、平成 23 年現在、総合運動部の設置校は 24 校、35 部となっており、約 800 人が総合運動部で活動していることが明らかとなった。

(6) 総合運動部の設置経緯については、水泳のみの活動から水泳のシーズン以外に他の

スポーツ種目を実施するようになったケース、新たに年間計画を立て、複数種目を実施するようになったケースなど、学校により異なっている。また、学校によっては、学校運動部に加えて地域スポーツクラブ（社会体育クラブ）が併存しているところもあり、児童のスポーツクラブへの加入は多様な様相を呈している。

(7) 質問紙調査の結果、以下のことが明らかとなった。

運動部や地域のスポーツクラブでは女子より男子の加入者が多いが、総合運動部では男子より女子の加入者が多く、総合運動部は女子のスポーツ参加を促進するクラブとなっている。

表1 性別 (I:運動部, II:総合運動部, III:地域クラブ, IV:非加入) (%)

項目	I	II	III	IV	合計
男	63.8	44.8	64.9	25.6	48.4
女	36.2	55.2	35.1	74.4	51.6

p<0.001

( $\chi^2$ 検定, 以下同じ)

地域のスポーツクラブや運動部の加入者では、体育が好きな理由として、体を動かすことが好きだから、面白いからという理由に加えて、スポーツが得意だからという理由をあげる者が多い。これに対して、総合運動部の加入者や非加入者では、みんなと一緒にできるからという理由をあげる者が多い。このことから、地域のスポーツクラブや運動部の加入者ではスポーツを得意としている者が多いということがうかがえる。総合運動部の加入者は他のスポーツクラブの加入者ほどスポーツが得意ではないが、仲間と一緒にスポーツをしたいという欲求をもっていることがわかる。また、総合運動部の加入者はスポーツをするときに大切なこととして、楽しくやるが一番だと思ふ者が多く、スポーツ実施においてスポーツの楽しさを重視する傾向を示した。

表2 体育が好きな理由 (%)

項目	I	II	III	IV	合計
からだを動かすことが好きだから	33.2	31.8	40.3	26.8	32.8
おもしろいから	29.8	28.7	24.3	38.3	30.9
みんなといっしょにできるから	16.9	20.9	7.4	26.2	18.0
スポーツが得意だから	17.9	13.2	25.9	4.8	15.1
からだにいいから	1.3	3.1	1.6	2.9	2.1
その他	1.0	2.3	0.4	1.0	1.0

p<0.001

表3 スポーツをするとき何がいちばん大切だと思うか (%)

項目	I	II	III	IV	合計
楽しくやるのがいちばんだと思う	38.8	51.7	37.0	49.4	43.6
いっしょうけんめいやれば良いと思う	48.9	32.9	40.8	35.9	40.5
やるからには勝つことが大事だと思う	7.0	2.8	11.3	2.0	5.7
あまり考えたことがない	5.5	12.6	10.9	12.7	10.2

p<0.001

スポーツクラブ非加入者に対して、スポーツクラブに参加するとしたら何を目標とするかを尋ねた質問で、最も多かったのはス

ポーツを楽しむこと、次に多かったのはみんなでなかよく活動することであることと考えると、非加入者が最も参加しやすいのは総合運動部ということになる。

表4 何を目標とするか

項目	M.A.	%
スポーツを楽しむ		39.0
みんなでなかよく活動する		36.2
体力をつける		34.4
じょうずになる		30.1
試合で勝つ		12.4
精神をきたえる		6.8
れいぎやマナーを身につける		6.1
レギュラーになる		4.1
その他		0.5

スポーツクラブへの加入について、クラブ歴が長いのは地域のスポーツクラブ、クラブに加入した契機で自分がやりたくて加入した者が最も多いのは運動部、親や友達の勧めや誘いなど他者の働きかけにより加入した者が最も多いのが総合運動部である。

表5 スポーツクラブ歴

項目	I	II	III	合計
1年未満	40.2	40.1	17.5	32.1
1年～2年未満	25.9	30.3	19.0	24.3
2年～3年未満	23.2	21.8	14.8	19.9
3年～6年未満	9.1	5.6	36.1	18.1
6年以上	1.5	2.1	12.5	5.6

p<0.001

表6 加入したきっかけ

項目	I	II	III	合計
自分がやりたかった	67.6	50.7	54.2	59.5
親にすすめられた	13.8	21.1	17.9	16.7
友達にさそわれた	11.9	19.7	14.5	14.4
兄弟にすすめられた	4.6	4.9	6.1	5.2
その他	2.1	3.5	7.3	4.2

p<0.01

スポーツクラブの活動状況について、活動日数、練習時間とも最も多いのは地域のスポーツクラブとなっている。総合運動部は活動日数は週2日まで、平日の練習時間は2時間までであり、子どもの生活に対する負担は最も少なくなっている。活動への参加頻度では、クラブ加入の契機として自分がやりたくて加入した者が最も多い運動部において、活動にいつも参加する者が多い。

表7 活動日数

項目	I	II	III	合計
週1～2日	69.7	95.8	29.5	60.4
週3～4日	28.1	2.8	48.9	30.7
週5日以上	2.1	1.4	21.6	9.0

p<0.001

表8 平日の練習時間

項目	I	II	III	合計
1時間未満	6.1	13.3	4.4	7.0
1時間以上2時間未満	42.1	71.3	29.0	43.4
2時間以上3時間未満	47.0	14.0	48.0	40.8
3時間以上	4.9	1.4	18.5	8.9

p<0.001

表9 活動への参加頻度

項目	I	II	III	合計
いつも参加する	75.5	62.9	63.9	68.9
たまに休む	21.8	32.1	32.3	27.6
半々くらい	2.8	5.0	3.8	3.6
・参加しないことが多い				

p<0.05

活動意識について、スポーツクラブに入ってからよかったこととして、総合運動部の加入者では友達ができたことやスポーツの楽しさを味わったことをあげる者が多い。また、活動の目標としても総合運動部の加入者は体力をつけることに加えて、スポーツを楽しんだりみんなでなかよく活動することをあげる者が多い。総合運動部の活動では、スポーツの楽しさを味わったり、友達をつくり、友達となかよく活動することが重要な要素となっている。これに対して地域のスポーツクラブや運動部の加入者は、大会や試合で勝てたことをよかったこととしてあげる者が多く、また、活動の目標としても上手になることや勝つことをあげる者が多い。このように、総合運動部の加入者と地域のスポーツクラブ、運動部の加入者では活動意識に差異が認められた。

表10 よかったと思うこと M.A. (%)

項目	I	II	III	合計
体力がついた	59.9	53.1	50.9	55.4
じょうずになった	29.2	26.6	32.5	29.9
友達ができた	22.8	32.9	24.9	25.5
スポーツの楽しさをあじわった	18.5	30.8	12.1	18.6
大会や試合で勝てた	10.9	4.9	18.1	12.3
大会や試合に出ることができた	11.6	9.1	7.2	9.5
根性がついた	8.2	2.8	10.6	8.0
精神的に成長した	6.4	5.6	11.3	8.0
れいき正しくなった	7.6	1.4	8.7	6.8
ストレスの解消になった	6.1	6.3	4.2	5.4
その他	0.6	0.7	1.9	1.1

表11 活動の目標 M.A. (%)

項目	I	II	III	合計
じょうずになる	46.2	32.2	49.8	44.8
試合で勝つ	34.0	16.8	36.6	31.6
体力をつける	31.0	42.7	20.8	29.6
スポーツを楽しむ	15.2	39.2	15.5	19.9
レギュラーになる	21.6	3.5	18.9	17.1
みんなでなかよく活動する	16.1	24.5	7.5	14.7
れいきやマナーを身につける	7.6	5.6	13.2	9.2
精神をきたえる	4.3	4.2	6.8	5.2
その他	0.9	0.0	1.9	1.1

スポーツクラブ加入後の生活の変化については、いずれのクラブにおいても、友達が増えたこと、体がじょうぶになったことをあげる者が多くなっており、友人関係の広がりや身体的効果が得られたとしている。

スポーツクラブ以外でも運動やスポーツをすることが多くなったとする者は、クラブの活動が多い、あるいはクラブの活動への参

表12 生活等の変化 M.A. (%)

項目	I	II	III	合計
友達がふえた	62.9	54.5	65.7	62.3
体がじょうぶになった	54.7	45.5	58.1	54.1
体育の授業が楽しくなった	47.7	46.9	42.3	45.6
スポーツクラブ以外でも運動やスポーツをすることが多くなった	47.4	34.3	43.4	43.4
家族とスポーツの話をすることが多くなった	42.9	22.4	47.9	40.7
たくさん食べるようになった	40.1	25.9	41.9	38.0
友だちと遊ぶ時間が減った	33.1	32.2	31.7	32.4
勉強する時間が減った	27.1	14.0	26.4	24.3
活動量が増えた	26.1	18.9	24.5	24.2
家族と過ごす時間が減った	15.8	9.1	18.1	15.3
生活がじゅうじつした	18.8	10.5	12.5	14.9
友だちと遊ぶ時間がふえた	10.3	9.8	7.2	9.1

加頻度が高い、地域のスポーツクラブや運動部の加入者で多くなっている。総合運動部の活動は他の生活領域に負担とならない程度の活動状況であるためか、運動やスポーツ実施についての波及効果は少なくなっている。

スポーツクラブに非加入の者のうち、半数に近い者がスポーツクラブに加入しようと思ったことがあるとしている。加入を考えたクラブとして最も多いのは総合運動部であった。総合運動部は非加入者にとって潜在的需要の高いクラブとなっている。

表13 スポーツクラブに参加しようと思ったこと

項目	%
ある	44.6
ない	55.4

表14 クラブの種別

項目	%
総合運動部	39.8
運動部	31.0
地域のスポーツクラブ	29.2

スポーツクラブ非加入者の非加入理由には体力に自信がない、スポーツが得意ではないなど、体力やスポーツ技能が低くて参加できないと自ら判断している者も多い。今後は、このような体力やスポーツ技能に自信がない者も参加できるスポーツクラブが必要となる。

表15 参加していない理由 M.A.

項目	%
他にやりたいことがあるから	26.8
体力に自信がないから	17.7
自由な時間がなくなる	17.5
スポーツが得意ではないから	16.5
勉強をいっしょうけんめいしたい	14.9
学習塾・けいごことがあるから	13.7
仲間とうまくやっていく自信がない	9.4
親が反対したから	7.8
スポーツに興味がないから	7.1
練習がきびしそう	6.8
指導者がきびしそう	4.8

スポーツクラブ非加入者のスポーツクラブに対するイメージとしては、仲間ができる、活動が楽しそうという者が上位を占めている。また、楽しい時間が過ごせるという者もあり、非加入ではあるが、必ずしもマイナス・イメージだけを抱いているのではなく、プラスのイメージをもつ者が多い。これに加えて、練習が厳しく、競技レベルが高く、勝利を目指しているというイメージを抱く者も多い。体力に自信がなく、スポーツがあまり得意ではない非加入者の非加入理由は、このような状況に関係していると推察される。

表16 スポーツクラブのイメージ M.A.

項目	%
仲間ができる	30.6
活動が楽しそう	29.9
練習がきびしい	26.3
自由な時間がへる	19.2
競技レベルが高い	18.5
勝利を目指している	15.9
楽しい時間が過ごせる	14.7
監督やコーチがこわい	10.9
その他	1.3

非加入者が希望するスポーツクラブの活

動日数は週2日または1日、練習時間は2時間未満であり、総合運動部の活動実態が最も近い。運動部の活動もこれに近いが、地域のスポーツクラブの活動は非加入者になると活動過多となっている。

表17 希望する活動日数

項目	%
週に1日	28.9
週に2日	49.5
週に3～4日	19.1
週に5～6日	1.3
毎日	1.3

表18 希望する平日の練習時間

項目	%
1時間未満	23.7
1時間以上2時間未満	53.4
2時間以上3時間未満	17.5
3時間以上	5.4

非加入者がクラブに加入するとしたら何を目標とするかについては、スポーツを楽しむこと、みんなでなかよく活動することが多くなっており、みんなでなかよくスポーツを楽しむことを目標としたいとしている。スポーツクラブ加入者の活動目標の実態からすると、総合運動部においてスポーツを楽しむことやみんなでなかよく活動すること目標とする者が多くなっており、非加入者が加入して活動の方向性・目標として違和感をもつことなく活動することができるのは総合運動部だといえよう。

表19 何を目標とするか

項目	M.A.
スポーツを楽しむ	39.0
みんなでなかよく活動する	36.2
体力をつける	34.4
じょうずになる	30.1
試合で勝つ	12.4
精神をきたえる	6.8
れいぎやマナーを身につける	6.1
レギュラーになる	4.1
その他	0.5

今後のスポーツとの関わりについては、運動部や地域のスポーツクラブの加入者では体力づくりに加えて、技能の獲得や勝つ楽しさを味わうことなどが重視され、総合運動部の加入者や非加入者では体力づくり、技能の獲得に加えて、友達づくりが重視される傾向にある。運動部や地域のスポーツクラブでは勝利を志向する傾向がみられるのに対して、総合運動部では友達との関係を重視する傾向を示している。

表20 今後のスポーツとのかかわり

項目	I	II	III	IV	合計
体力づくりのため	54.1	63.6	51.3	50.9	53.5
自分がじょうずになるため	55.3	36.4	52.1	32.4	44.2
勝つ楽しさを味わうため	26.1	13.3	30.2	15.9	21.9
友達づくり	7.6	21.7	8.7	20.5	14.1
気分てんかんのため	6.1	10.5	5.7	14.9	9.6
生活をじょうじつするため	11.6	8.4	4.9	10.6	9.3
その他	2.1	0.0	4.5	1.3	2.1
スポーツはしたくない	1.2	0.7	0.4	5.8	2.6

中学校での活動希望として、総合運動部に加入している者は中学校では運動部と総合運動部に二分される傾向にある。この状況

については、総合運動部の活動を通してスポーツの楽しさを味わい、中学校でも総合運動部で仲間とともに楽しくスポーツをしたいという者がいる一方で、総合運動部でのスポーツ実施を契機として、中学校では運動部に加入してもう少し本格的にスポーツをしてみたいという者が出てきていることを示唆している。

表21 中学校での活動希望

項目	I	II	III	IV	合計
運動部(総合運動部をのぞく)に入りたい	65.0	29.6	33.3	21.5	37.9
総合運動部に入りたい	3.1	28.9	3.1	6.6	7.6
地域(学校以外)のスポーツクラブに入りたい	5.5	0.7	26.4	4.6	9.4
文化部に入りたい	4.0	2.1	2.3	19.5	8.8
運動部・地域のスポーツクラブや文化部には入りたくない	1.5	0.7	2.3	8.6	4.1
わからない	20.9	38.0	32.6	39.2	32.2

p<0.001

総合運動部はこれまでスポーツクラブへの加入を躊躇していた者にスポーツの場を提供し、スポーツの楽しさを味わわせ、スポーツの継続実施を促すことができる組織として注目される。今後、このようなクラブが増加することが生涯スポーツ社会の実現につながっていくものと思われる。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計1件)

藤原誠、堺賢治、子どものスポーツクラブに関する研究 - 総合運動部に着目して -、愛媛大学教育学部保健体育紀要、査読無、第9号、2014、11 - 20

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤原 誠 (FUJIWARA, Makoto)  
愛媛大学・教育学部・教授  
研究者番号：00156928